

里山・広葉樹林再生プロジェクト第3回推進連絡会議概要

1 開催日時及び場所

日時：令和4年1月26日（水）15:00～16:00

場所：林野庁林政部会議室・福島県森林林業総室ミーティングルーム
（WEB会議形式による開催）

2 出席委員

委員名簿のとおり

3 会議の概要

森林総合研究所、福島県及び林野庁より議事の説明を行ったのちに意見交換。主な意見は以下のとおり。

（福島県森林組合連合会）

- ・ 鮫川村は、木炭・しいたけ原木の生産が盛んに行われてきたので、原発事故前の広葉樹資源は、今回推計された面積（150ha）より多いものと考えていた。

（福島県木材協同組合連合会）

- ・ しいたけ等原木として利用できない広葉樹の需要開拓が必要である。

（森林総合研究所）

- ・ 立木の状態でしいたけ等原木の放射性セシウム濃度の推定方法の検討を行っている。最新の研究成果として、コナラ当年枝の放射性セシウム濃度の季節変動から調査可能期間を従来の約2倍確保できることが示唆されたことから、今後の調査の効率化が期待できる。今後も様々な科学的知見を提供し、このプロジェクトを支援していきたい。

（林野庁）

- ・ 全国的に菌床用おが粉が不足している。炭はレジャー需要等で国産の炭に対する期待が高まっている。しいたけ等原木として出荷できないものについても菌床用おが粉や炭としての需要開拓が重要である。
- ・ 令和4年度から再生プランに基づく伐採・更新を進めていくこととなるが、実施するなかで見えてくる様々な課題について、長期的な視点で整理し対応を検討していく必要がある。引き続き本会議を通して関係者の認識を統一し、しいたけ等原木林の再生に向けた取組を進めてまいりたい。

（福島県）

- ・ 福島県内で菌床栽培を行っている生産者の多くは、現在は県外産のおが粉を使用しているが、県産材の活用も検討していきたい。
- ・ 令和4年度予算概算決定に福島県の要望を反映いただき感謝。原木林の再生は長期的なスパンで取り組む必要があり、今後とも関係者の御指導・御支援をお願いしたい。また、新型コロナウイルス感染症の収束後には、現場も見ていただきたい。

（以上）

里山・広葉樹林再生プロジェクト連絡会議委員名簿

氏名	現職
丹治 俊宏 <small>たんじ としひろ</small>	福島県農林水産部次長（森林林業担当）
松本 秀樹 <small>まつもと ひでき</small>	福島県森林組合連合会代表理事専務
佐藤 守 <small>さとう まもる</small>	福島県木材協同組合連合会専務理事
木下 仁 <small>きのした ひとし</small>	林野庁森林整備部研究指導課長
塚田 直子 <small>つかだ なおこ</small>	林野庁林政部経営課特用林産対策室長

（敬称略）

【オブザーバー】

氏名	現職
篠宮 佳樹 <small>しのみや よしき</small>	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 戦略研究部門 震災復興・放射性物質研究拠点長

（敬称略）